

①令和4年度県食品ロス・食品廃棄物削減優良活動表彰の実施

<目的>

食品ロス・食品廃棄物の削減の取組みを県民運動として一層推進するため、食品ロス等の削減について顕著な功績のあるものに対し、表彰を実施する。

<受賞者(7団体)>

- ・射水市環境衛生協議会
- ・三友商事有限会社
- ・大野菓子店
- ・富山県立石動高等学校 商業科
- ・富山県立氷見高等学校 海洋科学科
- ・ANAクラウンプラザホテル富山
- ・富山ムスージーラボ



【表彰式】

②期間近商品の優先購入キャンペーンの実施

<キャンペーンの概要>

消費、賞味期限の近接した商品の購入が食品ロス削減につながることを消費者に周知し、理解促進を図るため、スーパー等の店頭でポスター、POP等PR媒体を掲示する。

【実施期間】

令和4年10月1日～11月30日（一部、10月31日まで）

【実施店舗】

スーパーマーケット、【新】ドラッグストア、コンビニエンスストア

【PR媒体】

ポスター、POP、のぼり旗、プライスカード用おびによる啓発



【ポスター】 【のぼり旗】

③「食べきり3015運動」推進事業、食べきりサイズメニュー導入促進事業

<目的・内容>

外食産業における食品ロスを削減するため、宴会等での「食べきり3015運動」を推進するとともに、飲食店における「食べきりサイズメニュー」の導入促進を図る。

<登録状況(R5.2月末現在)>

食べきり3015運動協力店:506店舗

食べきりサイズメニュー提供店:584店舗



【協力店ポスター】

④フードドライブの拡大・定着

<目的>

家庭由来の食品ロスのうち「手付かず食品」の有効活用策であるフードドライブについて、実施団体への支援等により、県民の認知度向上や拡大・定着を図る。また、各地域や実施主体の実情に応じた多様な循環モデルの構築を促す。

<実施内容>

- ①フードドライブの実施支援(R5.3.22現在):74件(予定を含む)
- ②取組みのPR(啓発資料、ポスターの作成等)
- ③地域の実情に応じたローカル循環モデルの構築:4件(予定を含む)
- ④高校生を対象とした出前講座、アイデアコンテストの開催:4高校

⑤フードバンク活動促進に向けた拡大事業

<目的>

食品関連事業者から発生する未利用食品の有効活用を促進するため、さらなる提供事業者の確保に向けた普及啓発やマッチングの推進を通じて、フードバンク活動の拡大を図る。

<実施内容>

- ①(一社)富山県食品産業協会にフードバンク活動コーディネーターを配置
- ②食品提供事業者及び受取側となる福祉団体等への普及啓発、マッチング
食品提供事業者と受取側との合意書取り交わし件数(R5.2月末現在):60件

⑥「とやまのエコフィード」利用畜産物ブランド化推進事業

<目的>

畜産農家における飼料自給率の向上及び地域内未利用資源の有効活用を推進するとともに、畜産物の新たなブランド化に取り組む。

<実施内容>

- (1)エコフィードの需給マッチングの推進
 - ・新たなエコフィードの発掘（うどん屑、白ワイン用ぶどう粕）とマッチングに向けた調整（白ワイン用ぶどう粕の成分分析と肉用牛農家とのマッチング）
- (2)「とやま和牛 酒粕育ち」のブランド化の推進
 - ①「とやま和牛 酒粕育ち」の生産拡大
 - ・R4年度出荷実績 9戸、156頭(R4.7.22～R5.2.24現在)
 - ・飼養技術向上研修会の開催(R4.9.29)
 - ②販路拡大・PR活動
 - ・名称・ロゴデザイン発表会の開催(R4.7.19)
 - ・飲食店・販売店へのPR
(提供・販売店:飲食店25店舗、販売店8店舗、R5.2月末現在)
 - ・食のイベントへの出展やメディア等を活用したPR活動
(R4.10食の王国フェスタ、R4.11全農とやま「史上初の肉祭り」等への出展、タウン誌や県広報番組等での紹介 等)

【定義】

- ①県内で12カ月以上飼育され、最長飼養地を本県とする黒毛和種
- ②県産の酒粕を出荷前3カ月以上給与
- ③(公社)日本食肉格付協会の実施する牛枝肉格付規格が4等級以上



【ロゴデザインの意味するもの】

- ・酒粕を食べて育った和牛をイメージしたシルエット
- ・原料の酒米の「米」の字を放射線状に配置
- ・8つに分割された部分は肉の色を表現
- ・口元の菱形は栄養豊富な酒粕を表現